

<p>① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p>	<p>令和3年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、労務単価の上昇や事業実施期間内に新たに路網整備の計画を追加したことが原因である。</p> <p>総便益 (B) 66,355,904 千円 (平成22年度の評価時点 54,657,895 千円※)</p> <p>総費用 (C) 15,840,690 千円 (平成22年度の評価時点 8,331,615 千円※)</p> <p>分析結果 (B/C) 4.19 (平成22年度の評価時点 6.56※)</p>
<p>② 事業効果の発現状況</p>	<p>本事業で植栽されたトドマツなどの計画的な保育を実施したことから成長は順調で、間伐等の施業を行った箇所とともに多様な環境を持つ健全な森林として育成されており、木材生産のほか、水源涵養、山地保全等、森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。</p> <p>また、路網開設によって車両が通行可能となり、森林整備事業地までの到着時間の短縮や資材運搬等が容易になった。</p> <p>さらに、森林整備、路網整備事業の発注により雇用の場が提供され、地域の社会経済に貢献した。</p>
<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<p>森林整備については森林所有者自ら、又は、森林所有者から経営委託された森林組合が適切に管理を行っており、下刈り等の保育施業を適期に実施している。</p> <p>また、整備された路網は、草刈りや路面の整備等を行うなど、適切に維持・管理を行っている。</p>
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<p>林内の照度が確保された単層林や複層林、針広混交林が整備されたことにより、水源涵養、山地保全、様々な公益的機能が発揮された。</p> <p>路網開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、溪流の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>林業労働者の減少や高齢化により、林業の現場では効率的で生産性の高い作業システムの導入が求められている中、路網整備により作業現場へのアクセス改善や集約化による森林施業コストの低減が図られることで、森林所有者の森林施業の意欲が徐々に高まってきており、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上が図られると期待されている。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>利用期を迎えた森林資源を活用し、持続的な森林経営を実現していく必要があるが、これまでの木材価格の低迷等により間伐等の実施状況が十分といえない状況であることから、森林施業の集約化や保育作業の省力化など低コストで効率的な作業システムの確立のほか、計画的な森林整備を一層推進する必要がある。</p> <p>地元の意見：</p> <p>(北海道)</p> <p>森林整備事業実施によって水源涵養や山地保全等の公益的機能の発揮に寄与している。</p> <p>(枝幸町)</p> <p>森林の有する多面的機能が持続的に発揮されるために、計画的な事業実施が必要である。今後とも主伐・再造林・保育といった循環を加速化させ、森林の有する多面的</p>

	<p>機能はもとより、雇用の確保に向けた取組を推進していきたい。</p> <p>(稚内市)</p> <p>森林整備に伴い、国道、県道及び市道の沿線の危険木が除去され、通行上の安全が確保された。</p> <p>(南宗谷森林組合)</p> <p>森林施業の集約化を図り低コスト化を促進し、森林所有者の林業経営意欲の向上を図るため、計画的かつ効率的な森林施業の実施に努める必要がある。</p>
<p>評価結果</p>	<p>必要性： 間伐等の森林整備等を通じて、水源涵養機能の発揮や山地保全等が図られ、地域における水源地や、土砂の流出防止等に重要な役割を果たしており、事業の必要性は認められる。</p> <p>効率性： 森林整備では現地の状況を踏まえた効率的な作業システムにより、また、路網整備では集材効率の悪い箇所路網を開設することにより、コスト縮減が図られており、費用便益分析の結果からも効率性が認められる。</p> <p>有効性： 適切な森林施業の実施により森林の有する多面的機能の維持・増進に寄与している。また、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上に向け、地域が一体となった森林づくりの取り組みが進められていること等から事業の有効性が認められる。</p>

※平成 22 年度評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

整理番号

1

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：北海道

地域(地区)名：宗谷そんが

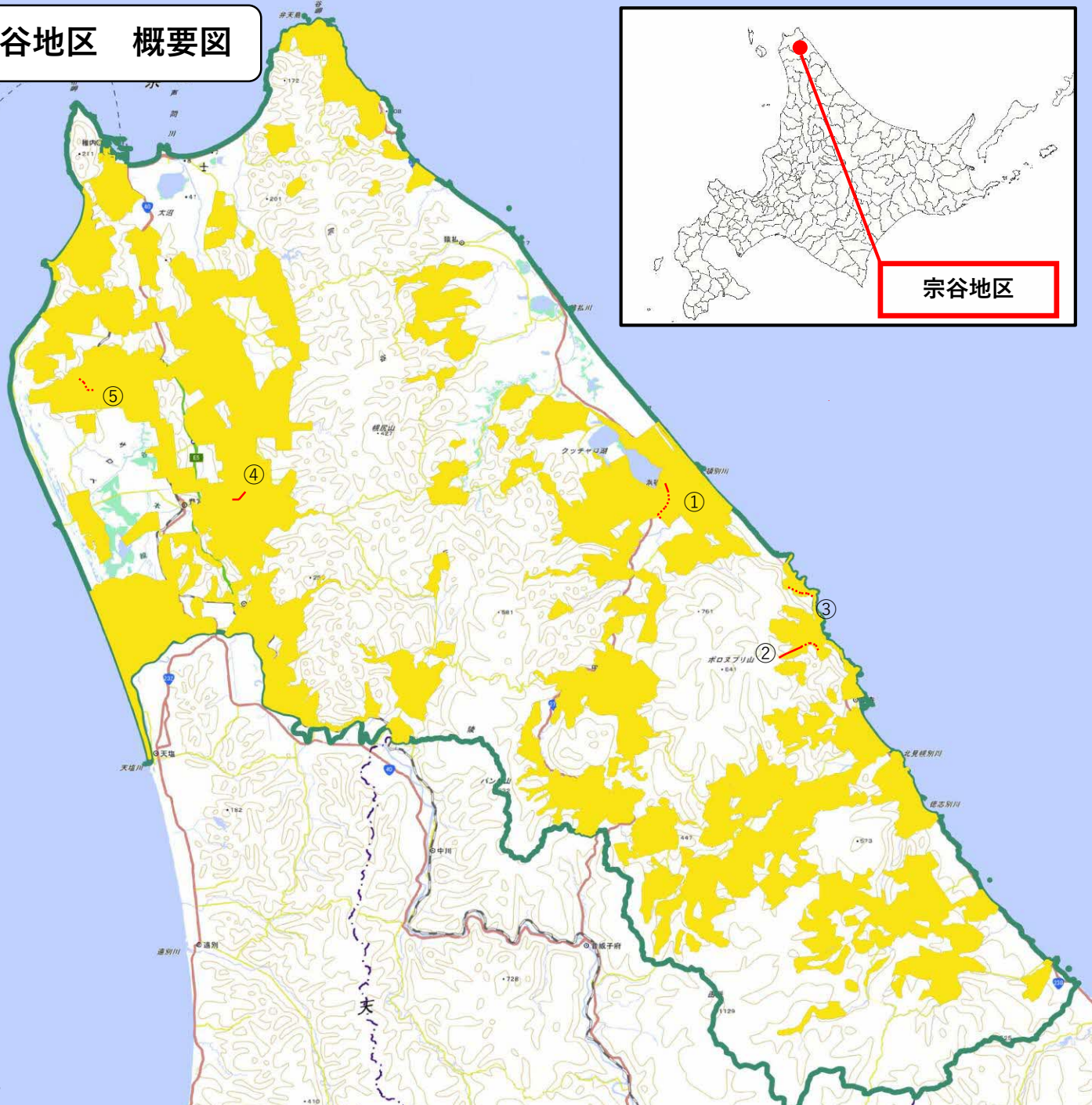
(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	14,415,665	
	流域貯水便益	4,436,566	
	水質浄化便益	16,421,251	
山地保全便益	土砂流出防止便益	20,408,802	
環境保全便益	炭素固定便益	5,795,973	
木材生産等便益	木材利用増進便益	543	
	木材生産確保・増進便益	4,527,422	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	349,682	
総 便 益 (B)		66,355,904	
総 費 用 (C)		15,840,690	
費用便益比	$B \div C = \frac{66,355,904}{15,840,690} = 4.19$		

森林環境保全整備事業 宗谷地区 概要図



宗谷地区



	森林整備
①	林道 常盤線
②	林道 間牧山林線
③	林道 目梨泊山林線
④	林道 サロベツ線
⑤	林道 豊田支線

凡 例	
市 町 村 界	
施工箇所(林道整備)	
計画箇所(林道整備)	

※背景地図に地理院地図を使用しています。